

四国社会資本アーカイブス

藤山 究¹・庵原 伸二²

¹正会員 一般社団法人四国クリエイト協会（〒760-0066 香川県高松市福岡町3丁目11番22号）
E-mail: fujiyama-k@sk-create.jp

²一般社団法人四国クリエイト協会 企画部（〒760-0066 香川県高松市福岡町3丁目11番22号）
E-mail: ihara-s@sk-create.jp

四国各地ではこれまでに河川、道路、鉄道、港湾、空港、電力などさまざまな分野で社会資本整備が行われ、四国の発展に貢献してきた。過去の社会資本整備が今日の地域の発展に貢献してきたことを人々に伝えることは、今後の社会資本整備に対する理解と共感を得る上で重要である。四国クリエイト協会では、これら四国の社会資本整備に関する情報を収集、整理して、その情報をインターネットで提供する「四国社会資本アーカイブス」を作成し、令和2年から本格運用を開始した。その概要を紹介する。

Key Words : Shikoku, infrastructure, archive, database, internet

1. 四国社会資本アーカイブスの作成と開示

四国クリエイト協会は、学識経験者、国土交通省、四国4県等で構成する「四国社会資本アーカイブス検討委員会」（委員長：柏谷増男愛媛大学名誉教授）を設置し、平成27年度から令和2年度にかけて開催した委員会の指導のもと、四国社会資本アーカイブスを作成した（表-1）。また、委員会終了後も、委員会の議論を踏まえて、アーカイブスの内容の充実及び周知と利用者拡大のための取り組みを継続してきた。

表-1 四国社会資本アーカイブス検討委員会委員名簿

(令和2年9月現在, 順不同, 敬称略)	
愛媛大学名誉教授 (委員長)	柏谷 増男
徳島大学教授	武藤 裕則
香川大学教授	長谷川修一
香川大学教授	原 真志
高知工科大学教授	大内 雅博
四国地方整備局企画部長	森本 輝
徳島県県土整備部長	貫名 功二
香川県土木部長	西川 英吉
愛媛県土木部長	葛原 健二
高知県土木部長	村田 重雄
四国クリエイト協会理事長	工藤 建夫
四国クリエイト協会顧問	福田 昌史

(1) 対象とする社会資本の範囲

四国社会資本アーカイブスで対象とする社会資本の範囲は、明治以降の以下の分野の社会資本とした。

- ・河川（直轄河川、直轄・機構ダム、直轄砂防、直轄地すべり、直轄海岸、主要な県事業）
- ・道路（高規格幹線道路、直轄国道、主要な県事業）
- ・鉄道（JR、第三セクター鉄道、私鉄）
- ・港湾・空港（重要港湾、空港）
- ・電力（主要な水力発電所、火力発電所、原子力発電所）
- ・その他（主要な市街地開発、ため池、用水、国営公園、治山施設、流域下水道）

(2) 情報の収集

情報源となる資料収集の対象は、四国の社会資本整備に関する以下の印刷物または電子データとした。

- ・工事史、事業誌、記念誌
- ・市町村史、郷土史、土木史
- ・学術論文、雑誌論文
- ・その他文献等

印刷物については四国の全ての公立図書館で収集したほか、国土交通省四国地方整備局及び管内の事務所、4県などの協力を得て収集し、電子データが公開されているものについてはインターネットで収集した。これまでに収集した資料は1,279冊で、社会資本整備に関する内容を記載した箇所等のコピー枚数は31,006枚である。

また、四国各地の社会資本にまつわる現場、石碑等668箇所を訪れて、関連情報の収集や写真撮影を行って

きた（数字は令和4年4月現在、以下同）。

(3) 情報の整理

資料収集及び現地調査をもとに、主に以下の情報整理を行った。

a) 主要事業データベースの作成

収集した全ての資料及び現地調査をもとに、一定量の情報（200字程度の情報）が掲載されている事業について、主要事業データベース（関係市町村、事業の着手・完成年、位置情報、事業の概要、情報源、キーワード、関連情報、構造物・石碑等の写真、原資料PDF等の情報を保存）を作成した。

b) 年表の作成

収集した資料の中から抽出した工事誌、事業誌等とともに、対象とする社会資本の事業ごとに年表を作成した。

c) 国道のルート変遷図の作成

直轄の国道全てについて、国土地理院の5万分の1の地形図をベースに、工事誌、市町村史等を参考にして、原則として一次改築前、一次改築後、現状の3時点のルート変遷図を作成した。

(4) 段階的な開示

情報は平成29年から令和2年にかけて三段階で開示した。第一弾（平成29年12月）では、直轄の河川・道路の情報を開示し、平成30年7月には河川・道路の主要な県事業の情報を追加した。第二弾（令和元年7月）では、鉄道、港湾・空港、電力の情報を開示した。第三弾（令和2年7月）では、市街地開発、ため池、用水、公園、治山施設、流域下水道の情報を開示し、令和2年11月には社会資本物語を追加した（図-1）。

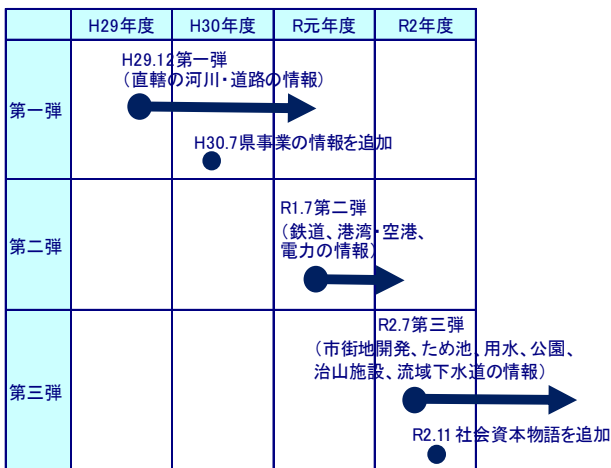


図-1 段階的な開示

2. 提供する情報の主な内容

(1) 主要事業の概要

主要事業の概要は、メイン画面の「地図で検索」、「種類で検索」、「キーワードで検索」のいずれかから進み、緑色の事業名をクリックすると表示される。主要事業データベース（関係市町村、事業の着手・完成年、位置情報、事業の概要、情報源、キーワード、関連情報、構造物・石碑等の写真等）の内容が表示され、著作権者の許諾が得られた場合には、許諾された箇所原資料PDFも掲載している（図-2）。

主要事業として登録しているデータ数は、河川522件、道路631件、鉄道354件、港湾・空港122件、電力13件、市街地開発16件、ため池23件、用水54件、公園1件、治山施設2件、流域下水道6件の合計1,744件である。

早明浦ダム

No.	高知2
県名	高知県
市町村	本山町、土佐町
事業化(着工)	昭和40年4月着工
竣工	昭和54年3月

Google Map



地理院地図



概要	早明浦ダムは池田、新宮などのダムと相まって四国四県の上水道用水、工業用水ならびに徳島県、香川県、愛媛県の農業用水の確保、洪水調節、不特定かんがい及び発電の用に供するものである。工事は昭和40年4月に建設省により工事用道路などの準備工事から始まったが、昭和42年4月に早明浦ダムの建設事業は建設省から水資源開発公団に引き継がれた。ダム本体工事は昭和48年3月に完成したが、その後、貯水池の漏水問題や出水の発生への対応を行い、昭和54年3月にすべての工事を完了した。
情報源	水資源開発公団池田総合管理所編「早明浦ダム工事誌」（水資源開発公団池田総合管理所、1979年）、25-41頁 水資源開発公団吉野川開発局編「輝く21世紀の暮らしと水」（水資源開発公団吉野川開発局、発行年不明）、13-14頁
情報源の種類	工事史、事業誌、記念誌
キーワード	早明浦ダム、多目的ダム、吉野川水系、水資源開発公団
関連情報	
参考画像	
原資料PDF	「高知015 早明浦ダム工事誌.pdf」を表示する 「四国039 輝く21世紀の暮らしと水.pdf」を表示する

図-2 主要事業の概要の例（早明浦ダム）

(2) 年表

主要年表は、メイン画面の「種類で検索」から進み、事業をクリックすると表示される。年表は一般的事項と当該事業に関する事項に区分し、一般的事項には法制度、計画等を、当該事業に関する事項には主要な事業内容（事業化、工事着手、竣工、供用等）、事業実施の背景となった災害等を簡潔に記載している（図-3）。

項目数（県別）は、河川44件、道路52件、鉄道29件、港湾・空港17件、電力8件、市街地開発3件、ため池3件、用水5件、公園1件、治山施設1件、流域下水道6件の合計169件である。また、主要年表とは別に、河川（直轄河川、直轄・機構ダム、直轄砂防、直轄地すべり、直轄海岸）29項目と道路（高規格幹線道路、直轄国道）35項目については詳細な年表も掲載している。

(3) 国道ルート変遷図

国道ルート変遷図は、メイン画面の「国道ルート変遷図」から進み、国道をクリックすると表示される（図-4）。直轄国道14路線（権限代行区間を含む）について、原則として一次改築前、一次改築後、現状の3時点のルート情報を県別に提供している。

年度	一般的事項	市町村	当該事業に関する事項	事業
大正8年 (1919)	4月、道路法公布			
大正8年 (1919)	12月、道路構造令・街路構造令制定			
大正9年 (1920)			4月、内務省告示により、現在の国道11号は撫養より徳島が21号国道に認定された（徳島工事五十年史276頁）	
大正14年 (1925)		徳島市	11月、吉野川橋起工（四国の建設のありみ379-381頁）	吉野川橋（国道11号）
昭和3年 (1928)		徳島市	12月、吉野川橋開通（四国の建設のありみ379-381頁）	吉野川橋（国道11号）
昭和16年 (1941)			4月、内務省神戸土木出張所が徳島国道改築事務所開設（徳島工事五十年史276頁）	

図-3 主要年表の例（徳島県の国道11号）



図-4 国道ルート変遷図の例（徳島県の国道11号）

(4) 社会資本物語

メイン画面の「社会資本ものがたり」では、社会資本が整備されるきっかけ、社会資本ができあがるまでの苦労、地域の人々の働きや協力、事業後の効果等をまとめた社会資本物語を提供している。4頁程度でとりまとめた物語を河川5話、道路5話、鉄道1話、港湾1話、空港1話の合計13話提供しているほか、より詳しい物語も提供している（表-2）。

表-2 社会資本物語

分野	テーマ
河川	①吉野川の治水と利水事業、②仁淀川の治水事業、③四万十川の治水事業、④四国の砂防事業、⑤早明浦ダムの建設
道路	①四国新道の建設、②主要都市の道路整備、③四国の山地を貫くトンネル、④四国的高速道路、⑤本四連絡橋3ルート
鉄道	四国の鉄道
港湾	高松港
空港	高松空港

3. 本格運用後の主な取り組み

令和2年7月に第三弾の開示を行い本格運用した後も、四国社会資本アーカイブスの内容の充実を図るとともに、四国の社会資本整備に対する人々の理解と共感を高めるために取り組みを行っている（図-5）。

(1) 情報の更新・追加

本格運用後も資料収集と資料整理を継続的に行い、新たに得られた情報をもとに主要事業の概要、主要年表を修正・追加するとともに、新たな国道開通情報をもとに国道ルート変遷図を修正し、令和3年6月に開示した。

(2) アーカイブスあらかるとの毎月掲載

四国社会資本アーカイブスへの理解と関心を高めるため、毎月WEBに四国の社会資本整備に関するコラム（A4版1枚）を掲載している。アーカイブスあらかるとは平成29年12月に創刊し、令和4年9月で第58号となっている。

(3) 「地域シンポジウム四国」の開催

土木学会建設マネジメント委員会と四国クリエイト協会が共催して、令和2年11月に「地域シンポジウム四国」を開催した。この中で四国クリエイト協会が四国社会資本アーカイブスについて報告するとともに、四国社会資本アーカイブス検討委員会の柏谷増男愛媛大学名誉教授と長谷川修一香川大学教授が四国の社会資本に関する講演を行った。

(4) 冊子「四国社会資本物語」の発行

四国社会資本アーカイブスの作成過程で得られた情報をもとに、河川、道路、鉄道、港湾、空港の14テーマで物語を作成し、令和2年11月に冊子「四国社会資本物語」（A4版88頁）を発行して、四国の県立図書館、学校等に配布した。

(5) 社会資本のストック効果に関するデータの作成

四国社会資本アーカイブスで収集した資料をもとに、四国の社会資本整備が産業・経済活動の生産性の向上や住民生活の向上にもたらしてきたストック効果の情報を整理し、データベースを作成している。ストック効果の整理作業は数年間で行い、作業が完了した題材の情報は毎年順次WEBで公開する予定で、令和4年6月に第1回目の公開を行った。

(6) 社会資本の石碑リストの作成

四国社会資本アーカイブスに掲載されている石碑等の情報をもとに、石碑等に関する社会資本整備の概要と写真などの基本情報を示す社会資本の石碑リストを作成し、令和4年6月にWEBで公開した。

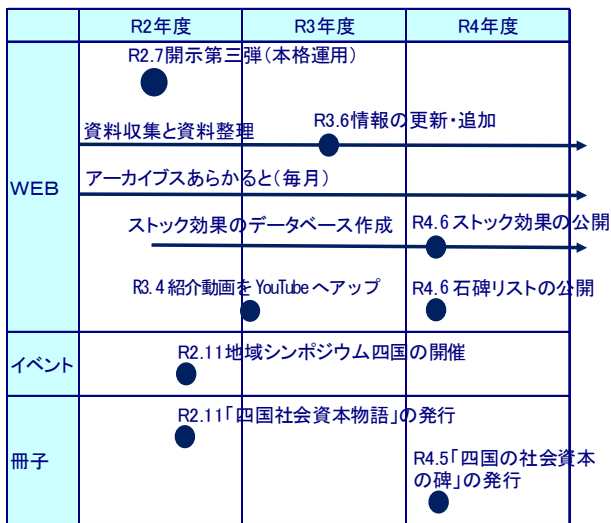


図-5 本格運用後の取り組み

(7) 冊子「四国の社会資本の碑」の発行

四国社会資本アーカイブスに掲載されている111の碑を対象として、碑の写真、碑にまつわる社会資本整備の概要、碑文、位置図を示した冊子「四国の社会資本の碑」（A4版252頁）を作成し、令和4年5月に発行して、四国4県の図書館、学校等に配布した。

4. おわりに

四国社会資本アーカイブスでは、利用者に3つのことを伝えたいと考えている。

第1に、四国各地では時代ごとにさまざまな社会資本整備が行われてきたことである。私たちが生活している基盤は、先人が長年にわたって努力、工夫して築いてきてくれた土台の上に成り立っている。

第2に、社会資本整備には多くの人々がそれぞれの思いを持って関わってきたことである。著名人だけでなく、世にあまり知られていない先人など、多くの人々がそれぞれの立場で社会資本整備に関わってきた。

第3に、社会資本整備を活かす取り組みが四国の地域づくりに貢献してきたことである。社会資本整備とそれを活かして地域の発展につなげようとする人々の絶え間ない取り組みのおかげで、社会資本が長年にわたって効果を発揮してきた。

四国社会資本アーカイブスは、毎年記録を収集・整理しデータの充実を図るとともに、令和3年4月に紹介動画を作製してYouTubeへアップした。

一方、ホームページのアクセス数は、平成29年12月から令和4年8月までの4年9ヶ月間で88,461件となり、当初1年の月平均731件から、直近1年の月平均は2,197件と着実に増加している。

四国社会資本アーカイブスが多くのの人々に利用されて、四国の社会資本整備に対する理解と共感が少しでも高まることを願い、今後も周知と利用者拡大の取り組みを進めていきたいと考えている。

(2022.10.17 受付)

SHIKOKU INFRASTRUCTURE ARCHIVES

Kiwamu FUJIYAMA, Shinji IHARA

Throughout Shikoku, Southwest Japan, infrastructure improvements have been carried out in various fields, including rivers, roads, railroads, ports, airports, and electric power, contributing to the development of Shikoku. Informing people that past infrastructure improvements have contributed to the development of the region is important in gaining their understanding and sympathy for infrastructure improvements. Shikoku Create Association has created the Shikoku Infrastructure Archives, which collects and organizes information on these infrastructure improvements in Shikoku and provides this information on the Internet, and began full-scale operation in 2020. This paper presents an overview of it.